

平成30年度学校自己評価

《評価 A:達成 B:概ね良い C:不十分》

学校教育方針	中・長期目標		
人間尊重の基盤に立って、学習を深め、心身ともに健全で情操豊かな人間形成を目指す。そのために、本校を取り巻く地域社会の特質と生徒の実態をふまえて、次の項目に重点を置く。 1. 自主性・積極性を育てる。 2. 学力・気力・体力の充実向上をはかる。 3. 連帯感を培い、社会性を養う。	1. 自分自身の意見をはっきり持ち、健全でバランス感覚に優れ、社会を支えられる次のような生徒の育成をはかる。 ① 幅広い基本知識を身に付けた生徒 ② 生徒会活動、部活動、HR活動等に積極的に参加する生徒 ③ 清掃・挨拶がしっかりできる、礼儀正しく、基本的な生活習慣の身についた生徒 2. 自分自身で進路を開拓し、成就できる次のような生徒の育成をはかる。 ① 資格取得、ボランティアの実習、体験入学、企業体験などに積極的に臨み、進路実現に意欲的な生徒 ② 知的な好奇心旺盛で、自らの学力を高めることにより、進路を実現しようとする生徒		
	今年度の重点目標	評価	成果と課題・改善策
	1. 学習と部活動・生徒会活動の両立を図り、自己の進路実現に向けて努力する生徒を育てる。 2. 基本的な生活習慣が身につく、挨拶や清掃に積極的に取り組める生徒を育てる。 3. いじめや体罰のない安心かつ安全な学校づくりに務める。	B	進路については早い段階から指導をすることにより、進路・職業を考える機会を増やした。意欲的に学習に取り組む姿勢もある一方で、真剣になりきれない生徒も見られ、今後の指導のありかたについて検討を要する。 複数のクラブが県大会、北信越大会など上位大会に出場した。また、本年度は全国総文祭が開催され、役員として大会を運営するなど生徒の自主性・積極性が見られた。 廊下での挨拶の声も聞こえ、多くの生徒が清掃に励み環境作りに向け前向きであり基本的な生活習慣は身につくにつつまる。「安心かつ安全な学校づくり」については職員研修会を通して意見交換を通して意識の共有を図った。

学年	重点項目	No.	評価の観点	評価	成果と課題・改善策
1学年	基本的な生活習慣の確立。	1	1学年指導方針「欠席・遅刻・早退をしない。」の具体化で、やるべきことを確実にやるのができてきたか。	A	殆どの生徒が、規則正しい生活リズムの中で、学校生活が送れた。
	他を思いやる力の涵養。	2	1学年指導方針「掃除・挨拶をしっかりとしよう。」の具体化で、清掃による他と共有する環境の整備や、挨拶による他への思いやりの気持ちが醸成できたか。	B	挨拶は概ねしっかり出来お互いの気遣い等が多くの場面で見られた。清掃は、人任せにする生徒もおり、徹底させなければならない。
	学習の基礎の習慣化。	3	1学年指導方針「授業は積極的に受けよう。」の具体化で、予習・復習を含めた学習の取り組みの習慣化ができたか。	B	授業に対する取り組みが一番だが、家庭学習の不足が多く生徒に見られた。引き続き、学習習慣の定着を促す指導が必要である。
2学年	基本的な生活習慣の確立。	4	今後の進路を考える上で必須である基本的な生活習慣を獲得、発展させているか。	B	欠席の多い生徒がやや多く見られる。その原因は各自異なるが明確に把握できていない場合が多い。
	自己と他人の権意識の獲得。他を思いやる力の涵養。	5	2学年指導方針「掃除・挨拶をしっかりとしよう。」および「自分を大切にしよう。」とは、自分とは異なる他者の存在を理解しなければならないが、意識できたか。	B	挨拶はしっかりとできる生徒が多い。しかし「自分を大切にしよう」とは、自分の時間も、将来も大切にしようということであるにも関わらず、スマホに時間を盗られている生徒が見受けられる。
	学習の応用力の養成。	6	2学年指導方針「授業は積極的に受けよう。」を踏まえた上で、自分のなりの学習方法の確立ができたか。	B	授業中受け身になっている生徒が見受けられる。授業を大切にすることが必要。休み時間もスマホばかりいじっていては問題である。
3学年	・当たり前だが、当たり前でできる人材や集団の育成(凡事徹底) ・お互いに対し、いたわりと思いやりの気持ちを持つ。 ・悔いのない充実した高校生活を達成するための各種指導	7	各種の進路説明会やオープンキャンパス、また研修旅行などを通じて、積極的に自分の進路の方向性を決定することができたか。また、3年次に向けての適切な科目選択ができたか。	A	進路について考えている生徒が増えてきており、3年次の選択も適切に行えた。しかし目先の勉強だけでなく進路に向けての学習を考える必要がある。
		8	基本的な生活習慣が身についているか。また、最上級生として自分の役割や立場を自ら考え、クラスマッチ・豊高祭・合唱コンクールなどの各行事に自主的積極的かつ楽しく参加しているか。自己の属する集団の中で、思いやりのある行動ができ、いじめなどがないか。	A	3年生の多くは、基本的な生活習慣ができていて、落ち着いた高校生活を送ることができたと思う。ごく一部、遅刻や欠席をしがちな生徒がいた。そういう生徒の習慣をしっかりと正す指導は結果的に十分とは行かなかったかもしれないが、何とか卒業にこぎつけた。全体的に3年生として上級生の自覚を持って、大きな学校行事を主導してくれたと思う。またいじめなどの事例もなく穏やかな日々を過ごせた。
	・確かな基礎学力固めと応用力養成並びに自分に合った進路選択に向けての意識づけと具体的な活動(多様性の追求)	9	3年生としてクラブ活動や生徒会活動で、各部署の中心的、模範的な存在となって活躍できているか。	A	各部活動ではよく頑張つて、成果を挙げることができた。
	10	生徒たちが間近に迫った自分の進路を意識する中で、予習・授業、復習の流れを実行し、十分な家庭学習の時間をきちんと確保できているか。	B	全体としては学習時間がもっと欲しいという感じがないこともないが、それぞれの目標を目指して精一杯頑張つて、進路を決定した生徒が多かった。	
	11	各種の進路説明会やオープンキャンパスなどで情報を収集し、積極的に自分の進路の方向性を決定することができるか。また、自分の決めた進路目標に向かって、精一杯努力する姿勢ができているか。	B	自己の進路を真剣に考えて、関心のある学校の説明会やオープンキャンパスに参加したり、資料やインターネットを利用して進路研究をしっかりした生徒が多かった。	

部	重点項目	No.	評価の観点	評価	成果と課題・改善策
教務	学校運営の潤滑油として日常的に機能する	12	生徒が安心して安全な日常生活を送れるよう、細やかな配慮ができたか。	A	・生徒・保護者アンケートのまとめから、少数の要望や意見はあるものの、学校生活への全体的な安心感や満足度は高いことが伺える。現状に甘んずることなく、よりよい学校運営を目指して改善点を掘り起こしてゆきたい。
		13	生徒の活発な活動を促すような行事計画などを、各部署に適切なタイミングで提案できたか。	B	・日々の学校生活や行事のあらゆる場面で、各部署に協力していただき大過なく運営することができた。 ・新課程での新たな取り組みである「探Q」活動に対して積極的に協力してゆきたい。
		14	想定外の事象に直面した場合、緊急の対応が問題なくなされたか。	B	・特に困難な事象に遭遇することもなく、事前の予定に沿って通常の対応ができた。

		15	HPなどのツールを有効に利用して、新鮮な情報を発信できたか。	B	・HPについては、こまめな取材と迅速な更新で本校の活動の周知に貢献している。学校紹介パンフレットなどはここ数年様式が固定化しているため、新たなアイデアが必要かもしれない。
	本校の魅力を積極的に発信する	16	「学校説明会」、「学校公開週間」が効果的に実施できたか。	B	・今年度初めて「学校説明会」を夏休み明けに実施したが、生徒会役員との協力を得て運営し、参加者にも高評価をいただいた。 ・「学校公開週間」も初の企画だったが、予想通り保護者の来校は少なかった。来年度は職員間の授業交流を促進したい。
進路指導	生徒による自主的、積極的なキャリア研究と進路実現に向けた計画的な指導と助言	17	①キャリア教育を体系的に再構築し、運用できたか。	B	現在今年度の実施状況をまとめ中。来年度には提示したい。運用上、授業を休む必要のあるものの扱い、引率の扱い、どの程度学校として積極的に勧めるのが良いかなど検討課題がある。
			②学習合宿、講演会、ガイダンス等の企画運営や情報の収集・伝達を効果的に行えたか。	A	特に問題なく実施できた。なお、病院・警察・自衛隊・税務署・福祉関係からは説明会開催の強い要望が来ている。
		18	③家庭学習の習慣を定着させるために、学年・教科と連携し、指導できたか。	C	1学年はスタディーサプリを利用して生徒個々が自分の学習を進められるように環境を整えた。2学年は模試の結果を職員会で共有した。教科との連携を進めていきたい。
		19	④上記①～③の実現のために、部内の仕事内容を見直し、効率化が図れたか。	B	それぞれの仕事は有効に進めているが全体として有機的に機能するよう考えたい。3年間一つの流れとして指導できるようにしていきたい。
生活指導	問題行動の未然防止とその対応	20	校内巡視が計画的に行えたか。	B	クラスマッチ・文化祭などの学校行事にくわえ、各学期の終始業式など計画的に巡視を行った。
		21	アンケートを実施し、いじめの実態把握と対応がきちんとなされたか。	A	教育相談部と連携し、アンケートを実施した。いじめの実態把握に有効であった。
		22	交通安全の立ち番を計画的に行いマナー・ルールを守る意識を指導することができたか。	A	交通安全週間などを利用し、委員会の生徒の協力のもと立ち番を行い、指導することが出来た。
		23	全職員で携帯電話の使用について注意喚起することができたか。	B	職員間の温度差はあるようだ。全職員で授業中のスマホについては指導を徹底させたい。
	地域・家庭との連携	24	学校・警察連絡協議会を通じて情報交換と連携が図れたか。	B	警察の方々と有意義な情報交換ができています。
		25	PTAと連携し市内巡視ができたか。	B	年2回の市内巡視を計画実施した。年一回で良いのではないかと意見も多く、検討が必要である。
生徒会指導	生徒主体の行事の運営と魅力ある生徒会組織作り	26	各種行事の企画・運営に生徒を主体的に関わせ、計画的に運営するように指導できたか。本部役員が率先して全校生徒を牽引できたか。	A	第71回豊高祭や合唱コンクール、クラスマッチ等で生徒の主体的な取り組みができた。特に豊高祭では生徒会役員ばかりではなく3年生全体が一丸となって、各種企画の準備に率先して取り組んだ。
	活発な運動部・文化部の活動運営のための援助	27	クラブ活動の支援ができたか。	B	各クラブの顧問の尽力のおかげで、支援することができた。
保健・清整	生徒の健康状態の的確な把握と安心安全な学校作り	28	生徒の健康状態について職員間での共通理解を深めるとともに、健康の保持・増進をサポートすることができたか。	B	災害給付と感染症1対応について組織的対応が整い、生徒の健康状況の的確な把握につながった。今後も本校における役割を考慮した対応を心がけたい。
		29	生徒の委員会活動や教室・校内の環境整備を通じて、健康的に学校生活を送るための環境衛生の維持に努めることができたか。	A	生徒保健員が、各検診係、衛生用品補充、保健便り作成と生徒主体の取り組みができた。特に冬の教室空気換気は、自主的取り組みとなった。
	校内・校外周辺環境美化	30	学校全体で清掃活動に意欲的に取り組めたか。	B	全体的には良いが、場所によっては清掃が行き届いていない所もあった。
31		①校内の環境美化活動を計画的に進めることができたか。 ②校外の清掃活動を計画的に行えたか。	A	清整委員会が中心となって、意欲的に活動を行うことができた。	

部	重点項目	No.	評価の観点	評価	成果と課題・改善策
図書・視聴覚	資料収集と提供	32	蔵書構成や利用をふまえた選書ができたか。	A	生徒・職員の要望に応えつつ、バランスよく選書することが出来た。
		33	リクエストや予約の制度が利用できたか。	A	大いに活用することが出来た。
		34	公共図書館や他校との相互貸借ができたか。	A	積極的に連携することが出来た。
	教科との連携	35	授業やHR、文化祭などで図書館の利用が活発になされたか。	A	今年度から探求の学習が始まり、資料の提供を始め、多くの生徒が利用した。又、社会・国語を中心に、授業の中でも、利用が出来た。
	読書推進活動	36	図書館講座や読書週間・朝読書などの行事が予定どおりできたか。	A	予定通り、行うことが出来た。概ね、好評であった。
		37	資料の紹介・図書の推薦が行われたか。	A	本年も職員の紹介本の冊子を、図書委員会で作成し、全校に配布した。又、図書館便りなどを通じ、積極的に本当の紹介を行った。
利用しやすい放送室の整備	38	昨年に引き続き、多くの職員や放送委員がより使いやすい放送室になるよう工夫していく。	B	集会等で使用する機材は放送室にほぼ集中させた。過渡期ではあるが引き続き工夫を考へたい。	
授業に生かす、視聴覚教材の探求	39	高視研の事務局が本校に置かれたので、最新の情報を仕入れ共有することで、日々の授業に役立てる。	A	近畿大学附属高等学校の乾先生を講師に招いて、ICT教育の現状について講演会を開催した。本校のみならず他高校にも公開とし、多くの参加が得られた。ICT教育は長野県内では始まっていない状況であるが、未来の教育環境整備に向けての重要な研修機会となった。	
防災	生命を守る危機管理体制の整備	40	平成30年度防災計画の作成・確認はできたか。	A	平成30年度防災計画の作成を行い、職員会で確認することができた。
	職員の防災意識の向上	41	危急時に備えた職員の意識を高めることができたか。	A	危急の際の職員の対応・普段の生活環境の中での災害危険箇所の発見等について、職員の意識は高まっている。
	火災・地震などに対する緊急体制の整備	42	緊急時における職員の初動体制を確認ができたか。	B	避難訓練等を通して、職員の初動体制・生徒の避難体制は確認できたが、職員の点呼方法について確認が不十分であった。
		43	防災訓練を実施することにより緊急体制の確認ができたか。	B	日程の都合上、生徒の消火・非常持ち出し訓練などが行えなかった。来年度以降、これらの事項が実施できるよう、日程を変更する方向で調整を図りたい。
渉外	PTA・同窓会活動の活性化	44	PTA活動に対する保護者の理解と関心を高め、諸行事への参加率を向上させることができたか。	B	・PTA総会への参加率の向上のため、内容の工夫をする。 ・地区PTA等での意見要望等を検討し、PTA通信で保護者に伝えることができたので、今後も継続させる。
委員会	重点項目	No.	評価の観点	評価	成果と課題・改善策
入学者選抜	確実・効率的な選抜業務の遂行	45	昨年の反省を活かした準備と確実な選抜業務が遂行できたか。	B	今後の遂行にご協力をお願いします。
将来構想・学習検討	本校の将来像を考えるための基礎構築	46	本校の現状についての多様な考えを交換し、生徒急減期に備えて、また将来像を描く上での方向性を論議する	B	職員研修を実施し意見交換、意識の共有を図った。来年度はテーマを絞って検討できれば良い(「進路」「部活」など)。
	本校の教育活動が生徒をよりよく伸ばすための一助となる資料の提示	47	本校の現状を理解するために教職員・保護者・生徒に対してアンケートを実施し分析した上で教育活動に活用する	B	アンケートを2回実施(6月、11月)し、授業力向上の資料とすることができた。ただ、伝え方に工夫が求められる。
「総合」運営	進路に関する積極的な意識づけと自己の目標の設定	48	「総合的な学習の時間」の中で、高校卒業後の自己の進路実現に向けて、各学年の設定した学習目標が達成できたどうか。(全学年)	A	設定した学習目標や計画を各学年ともほぼ達成することができた。
			「探求の学び」を取り入れた「総合学習の時間」を計画・実施できたか。(1学年)	A	現在進行中であるが、試行錯誤をしながらも、ほぼ計画通りに活動が行われている。
人権教育	人権意識の向上	49	人間尊重の意義、及び様々な人権問題についての正しい理解と知識を深める学習ができたか。	A	講演会、研修会で性同一性障がいについて正しく学ぶことができた。今後も全校で取り組んでいく課題の1つである。
		50	互いの個を認め合い、友情を育む学習が行えたか。	B	全学年が一致して、時間をとり、1つのテーマについて話し合うような学習はできなかった。

教育課程	生徒の多様な進路希望に対応できるように、教育課程のさらなる改善および講座の編成	51	新課程実施において起こりうる様々な問題点・見落とし等を早期に発見し対応策を講じることが出来たか。	B	教育課程の編成については、多岐にわたる進路希望を持った豊科高校生に概ね対応できている。今後も学年、生徒、進路係等と連携し協力していくことが必要。
	「31年度入学生用の教育課程」の編成	52	教育課程の編成が適当であったかしっかりと検証し、31年度入学生用の教育課程の骨格を作れたか。	B	生徒の現状に合った教育課程であり、運用面(講座編成、授業内容等)で工夫しながら、さらに、改善点等を模索しながら今後も検討を続ける。
	次期学習指導要領における新教育課程の検討	53	新教育課程について本校の特性や実態に合わせた課程の検討ができたか。	C	新教育課程については、現在検討中である。2022年度へ向け完成を目指す。
	総合的な学習の時間の内容等の検討	54	探究活動が行えるカリキュラムが作れたか。	A	今年度は、総合運営委員会と合同委員会を開き、「総合的な学習の時間」および「総合的な探究の時間」の計画等検討を行った。 平成30年度入学生について、大学入試改革の流れを受け、本校の「総合的な学習の時間」の中に、1年次に探究活動の位置づけ、計画、運営等企画し実施した。2年次についても引き続き探究活動を位置づけた。来年度は運営委員会を中心に実施してもらいたい。 平成31年度入学生以降は、「総合的な探究の時間」の先行実施が決定しています。運営委員会を中心に、関係部署と協力しながら、各年次の計画を練っていき活動してもらいたい。 いずれも、研究が必要である。
委員会	重点項目	No.	評価の観点	評価	成果と課題・改善策
学校衛生	職員の安全衛生及び健康保持増進を図る	55	職員の健康診断を全員実施が達成できたか。	A	書面交付をこまめに該当者に行い全員受診となった。人間ドック受診勧告も2回実施して受診率が上がった。
		56	衛生委員会を定期的に開催できたか	B	不定期の開催となったが、書面交付活動は毎月行った。広く周知できて委員の負担減につながったと思われる
合宿所運営	・使用規定の遵守	57	新合宿所使用がスムーズな手続きで行えたか	A	新合宿所の使用に関わる手続きなどスムーズ行うことができた。使用団体の要望など取り入れながら来年度の運営を行いたい。
生徒支援	・支援会議の実施 ・支援シートの作成	58	・支援が必要な生徒の支援シートの作成 ・中学から引き継いだ生徒を中心に支援会議の開催	A	特に1学年を中心に中学からの連携で支援会議を実施することができた。また他学年においても、支援会議の実施ができた。
	・職員研修会の実施	59	・可能ならば2回実施したい ・校内便りを活用し、職員生徒への情報提供	C	・1回の実施となってしまった。 ・校内便りについては、発行数が少なかった。
	・欠席が続き始めた生徒や様子が変わってきた生徒への早期対応	60	・担任だけでなく、様々な立場の人が生徒に気づき、互いに連携を取りあって対応するように。	A	・担任の様子やその生徒の状況も見ながら、対応をしていった。もっと担任-コーディネーターの連携が必要であった。
セクハラ対策	被害者・加害者にならないためのセクシャルハラスメントの正しい理解推進	61	研修会等、様々な機会をとらえて意識の向上が図られたか。	A	問題事例なし。コンプライアンス研修の中でも意識を高めることができた。
学校評議員校内運営	学校運営に生きる情報連携・行動連携の方法の模索	62	学校評議員からの意見や提言を学校運営に活かせる方向で検討することができたか。	B	学校の現状を説明し、おおむね理解と評価をいただいた。地元の中学校や地域の皆様の期待に応えられるよう、生徒と職員ともに努力していきたい。
しなの木セミナー運営	進路実現および学力向上のための支援	63	進路実現と学力向上のために有効な講座設定や円滑な運営ができたか。	B	年間を通じて各学年とも円滑に運営できた。多様な進路希望に沿って補習や模擬試験などを実施し、学習意欲や学力の向上に寄与できた。
いじめ対策	いじめの未然防止・早期発見に向けた生徒指導の取り組みについての研究と実践	64	「学校いじめ防止等のための基本的な方針」に基づき、未然防止・早期発見のための職員間の連携が機能したか。	B	「豊科高校いじめ防止基本方針」に沿って、ささいなけんかやふざけ合いであっても軽視せず、いじめの可能性のある事象について常に気を配ることを確認した。
		65	問題対応とその指導が適切になされたか。	A	アンケートや日常の声掛け、担任との懇談などを通じて早期の対応ができるよう職員連携を図った。
コンプライアンス	公務員としてのコンプライアンス意識を高めるために個人とともに職場全体で研修に取り組む	66	1年間を通して、効果的な研修が行え、その結果として各個人・職場としてのコンプライアンス意識が向上したか。	A	2回のチェックシートと面談を通して、コンプライアンスの意識を高めることができた。設備の不足店には早急に対応できた。他の課題点においては、研修を行うことで補っていくつもりである。
図書選定	資料収集と提供	67	蔵書構成や利用をふまえた選書ができたか。	A	生徒や職員の要望には可能な限り応えつつ、バランスよく、選書が出来た。